

第4回葛城市総合計画及び総合戦略策定審議会

議事要旨

日 時：令和8年8月19日（水）午後2時00分～午後4時30分

場 所：葛城市役所 新庄庁舎 2階 会議室

出席者：北詰委員 村瀬委員 石田委員 吉田委員 谷口委員 岡山委員 東林委員
川本委員 杵岡委員 堀内委員 布施委員 奥田委員 下村委員 杉村委員
高垣委員 東野委員 大武委員 菱田委員 大植委員 坂上委員 松井委員

欠席者：溝畑委員 人見委員 駒井委員 森 委員

議題

1 開会

2 会長挨拶

3 案件

- （1）第二次総合計画・第2期総合戦略の実績報告
- （2）第三次総合計画（基本構想・基本計画）
- （3）人口ビジョン
- （4）第3期総合戦略
- （5）その他

4 閉会

2 会長挨拶

会長より挨拶

3 案件

(1) 第二次総合計画・第2期総合戦略の実績報告

奥田委員

第2次総合計画で到達できなかった内容と、現在策定中の第3次総合計画の内容との整合性について確認したい。未達成の事項を引き継いでいくのか、あるいはニュアンスを変えて別の形で政策を打っていくのか、どのような考え方で今回の計画に盛り込んでいるのかお示しいただきたい。

事務局

10年前に立てた政策であるため、状況の変化に合わせて新しい政策に切り替える部分と、継続して引き継ぐべき部分の両方があると考えている。

会長

旧来の指標と新しい指標が1対1で対応しない場合でも、関連性を明確にし、新しい指標の達成によって旧来の課題もカバーできるといったことを整理することは重要な考え方であると思う。定量的な評価が難しくても定性的なコメントなどで担保していくことができるとよいだろう。

奥田委員

両方の側面があると理解した。第2次の計画から第3次の計画において、ぶつ切りではなく、前計画の内容も担保しつつ、新しい計画を進めていくのだと思うので、そのあたりが認識できればと思い発言させていただいた。

岡山委員

実績報告書の数字について確認したい。「市民一人当たりの貸出冊数」の令和3年度実績について、正しくは「5.5」ではないか。

事務局

指摘のとおり「5.5」の誤りである。修正させていただく。

会長

全体、再度確認いただければと思う。

(2) 第三次総合計画（基本構想・基本計画）

奥田委員

前回の審議会で、アンケート結果を重視し、施策と紐づけてほしいと要望した点について、反映していただき感謝する。基本理念についてだが、第1次、第2次計画では「歴史」や「悠久のロマン」といった言葉を用いており、前回示された案でも「歴史と未来が調和し」という言葉があった。しかし、今回の案では「歴史」という言葉が落ちており、「山麓（みどり）と都市（まち）が調和した」となっている。大事にしたいキーワードとしての表記がなされていた歴史という文言をなくして、この理念にした背景を教えてほしい。また、「葛城ライフ」という新しい造語については、意味付けがしやすく非常に良いと感じている。この「葛城ライフ」に込めた思いについても詳しく説明してほしい。

事務局

前回の審議会での指摘を受け、事務局で葛城市の良さを改めて検討した結果、美しい山麓の緑と便利なまちの機能の共存・どちらもあるということが意見として出た。そして、それを表現するため「山麓（みどり）と都市（まち）が調和した」という言葉を採用した。歴史という言葉も重要ではあるが、言葉をたくさん入れすぎると内容が煩雑になる懸念があったこと、また、今後のリーディングプロジェクトとして、産業振興や企業誘致、耕作放棄地対策などをメインに据えたいという思いがあったことから、今回の案に変更したという経緯。歴史を軽視しているわけではないが、葛城市の良さを考えた際に最も伝えたい言葉として、今回の事務局案となったのが検討の背景となる。

奥田委員

山麓部と都市部の混在というイメージは葛城市の特徴として理解できるが、20年間大切にしてきた「歴史」というキーワードを完全に落とすのは、街の方針が180度変わったような印象を受ける。シビックプライドや郷土愛に関する施策も示す中で、歴史という単語がなくなることが本当に良いのかという不安も正直感じている。他の委員の意見も伺いたい。

布施委員

理念に関して、「葛城ライフ」の説明については理解できた。ただ、その先の政策目標などで使われている「セーフティネット」「シティプロモーション」といったカタカナ語について、できるだけ日本語で表現してほしい。理念はどの世代が見ても分かる言葉であるべきだ。横文字を使われると解釈に微妙な誤差が生じ、後から「そんな話だったのか」となりかねない。80代、90代の高齢者が読んでも理解できるような、きめ細やかな言葉選びを検討してほしい。

事務局

言葉をそのまま使うか、説明を入れて対応するか、検討させていただきたい。

会長

理念のこれまでの経緯や今回の変更に関する内容は、必要に応じて繋がりや継続性に関する書き加えも検討されたい。

副会長

数値目標として「地域満足度の向上」と「幸福度の向上」の2点を掲げることで分かりやすくなったと思う。これらの数値が何によって高まるのかという部分が言及されていないので、日々の業務などから見えてくる、資料にない裏付けなどあれば教えてほしい。

事務局

17ページ以降の基本計画で示す個別施策のKPIの数値を上げることによって、最終的にKGIとしての満足度や幸福度が上がっていくという考えで計画を作成している。そういった内容についても、付け加えたいと思う。

会長

満足度の扱いは慎重に。全体の平均値だけをみていると、幸福度が低い人を上げること、高い人を上げることといった詳細の部分までは見切れない。ターゲットを絞った分析も数値の評価をしていく際には必要。数字だけで判断して本質を見失わないようにしてほしい。

松井委員

資料4ページの「小中学生アンケート」の対象が「小学5年から中学3年の児童生徒全員」となっているが、アンケート報告書では「市内学校に通う児童生徒」となっていた。私立校に通う児童生徒は対象外だったと思うが、この書き方だと市内に住む全員が対象であるように誤認されるため、表記を正確にしてほしい。

事務局

指摘のとおりである。表記を修正する。

石田委員

政策目標1の名称から「若者」という言葉を抜いた理由を改めて説明してほしい。

事務局

若者施策としては、ひきこもり対策やニート支援といった内容がほとんどで、この政策目標1の分野は、年齢層としてはもう少し下の世代への施策を整理した項目であるため、ここでは対象を絞る記載とした。また、若者への支援策は福祉分野（セーフティネット）でフォローするという整理をしている。

石田委員

子どもから急に大人になるわけではない。切れ目のない支援とするのであれば、「若者」という言葉を残し、繋がっていくイメージを持たせる方が良いと思う。また、ひきこもりも今本当に多くなっており、青年期にも支援対象が多い。誰も取り残さない支援という意味でも

若者を大事に支援していったほしい。

事務局

再度、担当課や先生にも相談しながら検討・調整させていただく。

奥田委員

「こども・若者家庭センター」という名称の施設があるのなら、支援対象として「若者」が入っているのは明確だろう。名称（施設の使命）と整合性を取って盛り込んだ方が良く考える。

大植委員

22 ページの数値目標に「学校図書館の年間貸し出し冊数」とある。ICT 活用を掲げる一方で、図書館としては書籍の目標を立てているのはなぜか。ここは電子書籍のダウンロード数などではないか。

事務局

学校図書館としては電子書籍もあると思うが、蔵書の充実にも取り組んでおり、実際の本も読んでもらいたいという願いもあるので、この数値目標にしていると担当課からは聞いている。

奥田委員

学校教育の現場では、紙の本を読む習慣や、そこから養われる読解力・創造力を重視しているため、この数値を設定しているのではないかと勝手にではあるが思っている。本を読む国語力の強化は、他の教科の勉強にも必要な要素。

それと合わせて、教育目標の「好奇心に答え知る喜びを広げ、自己実現を支援する教育」という表現について、次の学習指導要領の改訂を踏まえたこれからの 10 年を見据えるとしたときに少し古く感じる。これからの時代は知識を得るだけでなく、それをどう社会に実装し、どう工夫して変えていくかという「創造力」が重要になる。数値目標も、従来の学力テストの結果だけでなく、独自の観点で評価できる指標を検討してほしい。教育を評価するのは難しいことというのは理解しているが、例えば「特色ある学校をどれだけ作れたか」など、積極的に先進的な取組をしていけるような攻めの姿勢の指標を盛り込めたら良い。

事務局

学習指導要領の内容についても、担当課と確認したい。また、市としては教育大綱の策定を行っているのでそこの整合性も確認しながら、どのような指標が可能か検討したい。

会長

単に入試の得点が高いだけでなく、知識を社会に繋げられる人材を求めているのは、大学も同様。市としての数値目標設定は実現可能性も含めたもので考えると思うので慎重に行うというのも理解できるが、文科省の方向性も踏まえたチャレンジングな政策の検討は、担当

課として挑戦してほしい。10 年の間、従来通りの施策で終始するのはリスク。今時点で書けないもの、設定できないものは中間年などで挿げ替えるのも良い。申請して、取組として進められるようになったときに、KPI を新たに設定するなど、ポジティブな変更なら歓迎すべきことだろう。学校教育の向上は、社会増（転入増）にも好影響を与える。

岡山委員

インフラの老朽化、特に地下の水道管の漏水が非常に厄介な問題だと懸念している。熊本地震の例を見ても、水が使えない生活は過酷だ。他の自治体でも事故が起きており、本市でも同様のことにならないか不安。10 カ年の計画の中で、管路の更新をどのように着実に進めていくのか注視したい。

事務局

水道ビジョンに基づき、管路の更新目標を設定して進めていく。整合性を図りながら数値目標の設定等調整していきたい。

松井委員

バリアフリーの文言について、取り入れてくださりありがたい。31 ページの関連計画にバリアフリー基本構想とある。調べてみると平成 22 年の策定から継続的な推進が示されているが、現在の状況はどうなっているのか。ホームページを見ると委員名簿が古いままとなっているが、協議会の開催状況についても教えてほしい。もし、計画推進や協議会の開催等がなされていないのであれば、他市のように更新や調査をしっかりと行ってほしい。

事務局

協議会の開催状況については、担当課に確認させていただく。計画の推進としては、今も進められており、南都銀行横の歩道整備等の工事もその一つ。バリアフリー基本構想に示された内容に基づき県の方で事業実施が進められている。

松井委員

自殺対策について、自殺対策推進計画をみると、本市の自殺率が全国平均や県平均より高いというデータがあり驚いた。特に若年層や働く世代、女性の割合が高い理由をどう認識しているか教えてほしい。

事務局

担当課に確認する。

会長

確認した内容に応じ、調整をしていくことが必要だろう。目標設定につながる部分でもあると思う。

石田委員

自殺に関するデータは統計の詳細を見ることが必要になる。警察の統計は、住んでいる場所ではなく、亡くなった場所のデータ。市民が亡くなることと、葛城市に来て亡くなった方がいるのとでは、大きく違う。そのあたりも注意してほしい。

坂上委員

「相撲発祥の地」について、住民の認知度は 88% と非常に高い。今回の計画においても相撲コンテンツに関する記載が多くある。相撲について、日本遺産の申請は検討しないのか。文化庁の認定基準としては、日本遺産としてのストーリーを作成する必要があるが、相撲のふるさと葛城として物語を構成すれば、十分に可能性があると思う。

事務局

担当部署の思いを確認し、そのような記載が可能か含めて検討したい。

会長

シティプロモーションとの関連も深い項目であると思う。大きなプロモーションになると思うので、調整してもらいたい。

布施委員

学習指導要領の改訂は、保育園・幼稚園・認定こども園にも大きく影響する。こうした変化についていけるよう、教育委員会の方にも、そして総合計画の記載としても調整をお願いすると伝えてほしい。

また、通学路の安全確保について、25 ページの数値目標である「対応率」だけでなく「長期未解決案件」の数も把握すべき。10 年以上前に要望した案件が放置されているケースがある。諸条件により難しいことがあるのは承知しているが、残っている案件があることを明確にし、市民全体の課題として共有すべきだ。

奥田委員

53 ページの数値目標に「職員研修受講者数」とあるが、この研修の中身としては具体的にどういったものか。詳細を記載することで分かりやすくなると思うので検討してほしい。

60 ページの資源ごみについて、堺市の方で、ごみの受け入れが不可となったニュースがあった。本市の焼却炉の許容量や故障時のリスクなどを市民に周知し、ごみを捨てる際の注意喚起につなげるのも良いと思う。また他自治体からの受け入れが可能なのか、市内のごみで手一杯なのか、そのあたりも教えてほしい。

事務局

長期案件の数を指標化できるかは、難しいと思うが検討はしたい。

職員研修は、幅広いものを必要な際に受けていくことを想定しているので、計画として詳細の内容を具体的に表記することはしない方向で調整させてもらえたらと思う。

ごみの許容量についても、個別具体的に示すのは難しい面があるが、広く意識向上を図っていききたい。

大植委員

分別の負担を感じている市民も多い。採算が合わず結局分別しても一緒に燃やしている自治体もあると聞かすが、葛城市はどうなのか。市民の負担減を目的として、すべて燃やす形にシフトするのも良いのではないか。市民からリサイクルを求める声があがることもあるだろう。しかし、輸送コスト等を考えたときに割に合わない等の状況があるところもあると聞く。

事務局

ごみ処理の詳細については確認させてもらえたらと思うが、市としてはリサイクル率を指標として掲げており、現状数値があがっているので採算が合わないからといって全て燃やしているという状況ではない。

奥田委員

松井委員の話に追加して。広報広聴といった施策も記載されているが、せっかく協議会があるのであれば、対話する場として継続的に開催して、意見を取り入れる場として活用していったほしい。

企業誘致の分野に関連計画がなしとなっているのが寂しい。以前にあった「葛城ラボラトリシティ構想」のような、大手企業が試作品を持ち込んでモニタリングするような構想を復活させ、企業誘致に結びつけてほしい。もしあるのであれば、土地利用の計画等と合わせて関連計画への記載も検討してほしい。

市政フォーラムについて、市長のタイミングで行うのではなく、定期的なタウンミーティングとして計画的に開催し、市民の声を拾い上げる仕組みとなっていけると良い。定期的に実施できる方法として一工夫あると良い。

山麓地域の景観について、現状、スクラップ置場や残土置き場となってしまっている状況がある中で、10年間でこれにどう歯止めをかけ、保全していくのか。耕作放棄地も土場になってしまっている場所もある。踏み込んで政策に落とし込んでいくことが必要だと思う。

脱炭素社会の実現についても、市としてゼロカーボンシティ宣言もされており取組が進められていると思う。今後さらなる取組として、かつて検討された「小水力発電」を山麓地域で実施できたら、活性化にもつながると思う。取組として盛り込み検討してほしい。

スポーツについても関連計画がなしになっている。新庄スポーツゾーンの計画もあったように記憶している。あそこは天然の芝生もテニスコートもあり、スポーツの拠点として整備が進められていたと思う。市民体育大会も名称が変わったが取組続いている。関連計画としての記載があると、このあたりの内容の解像度も上がるだろう。

日本語教室の受講者数を数値目標に設定していることについて、これは外国人の移住者を増やすためのものか、それとも既に来ている外国人や働き手としての技能実習生等への支援か、背景を教えてほしい。

事務局

市政フォーラム・タウンミーティングについては定期開催をしていきたいと考えてはいる。計画の記載内容としては、再度検討させていただきたい。

山麓の産業廃棄物に関しては、現状として歯止めをかけるのは難しいと感じている。しかし、今後は国の方でも法改正等の動きがあると聞く。今の状況として計画にどこまで書けるか再度検討したいと思う。

小水力発電については、担当課と調整する。また、スポーツ関連は、計画の策定を予定していると聞いている。記載の有無について担当部署と相談したい。

日本語教室については、外国人を増やすことが目的ではなく、在住の方が生活に困らないようにし、孤立による犯罪などを防ぎ、地域の一員としてコミュニケーションを取れるようにすることを目的としている。

副会長

不登校に関する現状値として、不登校の生徒数は増加傾向となっており、現行計画の進捗としても、目標値を上回る値となっている。子育てに力を入れている葛城市としては大きな課題であると思う。不登校児が増えている背景をどのように把握しているか教えてほしい。また、発達障害が増えていることも不登校児が増えている背景の1つにあると思う。そこへの対策も進めていくことが必要になってくるだろう。

不登校に関する数値目標が「1000人あたりの数」となっているが、これだと「学校に行かせることが目標」になり、無理に行かせることで本人の幸福度を下げる恐れがある。学校以外の居場所の確保や、人間関係の再構築、保護者の孤立防止など、多角的な指標を検討できないか。

石田委員

不登校は全国的に増えているが、葛城市の小学校に限っていうと不登校児は減少傾向となっている。市では巡回相談員による家庭訪問などで、学校に戻すことではなく「人間関係を築くこと」を目的とした関わりを重視している。発達障害に関する取組としても、適応指導教室での連携などを進めているほか、こどもたちの居場所づくりも進めている。こども若者家庭センターの方からの取組として、様々取り組んでいるところ。

事務局

担当課等と調整して、検討進めていく。

奥田委員

尺土駅前の整備や、新町柳原線の道路改良などがリーディングプロジェクトに位置付けられたことは非常に力強いと感じている。

80ページの山麓地域の活性化で、なぜ「ゆず」の植栽が選ばれたのか。地元の声なのか、事務局で決めたのか背景を知りたい。山麓地域には「桑の実」のイメージもあったので、なぜ急にゆずなのか教えてほしい。

山の辺の道は道の駅も含む形で盛り上げていくのだと思っている。うまくリンクさせて取組を進めていってほしい。

今回、市の魅力として、當麻寺等の歴史から相撲にシフトしている感じがあり、そこがなぜか気になっている。国宝を8つも所蔵している稀有な特徴がある大事なコンテンツとして

活用してあってほしい。また、新庄方面の神話に基づく観光要素のプロモーションとしても、日本遺産同様ストーリーが大切になってくると思うので、そのあたりも政策に加えてもらえたらと思う。

吉田委員

柚子については、梅乃宿酒造に関する話だと思うので発言する。梅乃宿酒造では、酒造として多量の柚子を使用しており、現在は全国から買い付けている状況があるので、そこを地元で供給できれば、という想定ではないかと思う。

事務局

ご指摘のとおりである。

奥田委員

納得した。企業連携という視点からも進めていける耕作放棄地対策としての取組ということと理解した。農業の就農促進にもリンクし、地域としてのブランド化にもつながるものだと認識した。だが、桑の実も忘れずに盛り上げてあってほしい。

(3) 人口ビジョン

意見なし

(4) 第3次総合戦略

会長

取組の詳細は次回に示されるという認識でよいのか。

事務局

次回会議で示す予定。

奥田委員

総合戦略は計画書としてどのような形で示されるのか。総合計画の様な冊子の形を想定されているのか。

事務局

総合計画ほどの厚みにはならないが、各施策の詳細をページごとに説明する形式のもので作成する予定である。

(5) その他

事務局

次回審議会は、10月上旬～中旬を予定している。本日意見をいただき修正した総合計画・リーディングプロジェクトをお示しし、確定まで調整したい。また総合戦略の素案をお示し予定。その次の会議としては、11月下旬を予定している。総合戦略の確定を想定している。その後12月議会での報告を経て、パブリックコメントを実施し、1月下旬に意見を踏まえた修正稿をお示しし、市長への答申という流れとなる。

以上